

～「北部サークル連絡協議会」 創立40周年を迎えて～

北部サークル連絡協議会
会長 伊藤 允之

北部サークル連絡協議会は、昭和五十五年に発足以来今年で40周年を迎えることが出来ました。当サークル連絡協議会が40年の間、多くの先輩の方々の努力によって続けられ、今日を迎えられたことは、感謝にたえません。

昨今、高齢化社会と言われる中で、益々増える高齢者の方々が、生涯学習に感心を持ち、仲間をもつための学びの場が必要になるのではないのでしょうか。その必要に応えるために、北部市民サービスセンター「キタスカ」があり、多くのサークルと多数の会員の方々が活動し学習に励んでおります。

当協議会では、会員間の交流、親睦を密にするため、さまざまな行事を行い、交流を深めていきたいと考えております。これまで、そうした行事に各サークルから多くの方々の参加があったことに感謝致しております。現在、当協議会には62のサークルが登録されており、およそ千名近い会員の方々が活動しております。健康で長生きし、又多くの人々との交流を深めるためにも是非一度、サークル体験をして頂きたいと思っております。その一番良い機会が、毎年行われております「キタスカまつり」かと思っております。

スポーツ・文化・芸能と多彩なサークルが活動しております。

当「北部サークル連絡協議会」が、これからも、秋田市北部地域の皆様の健康と、生き甲斐のある生活、ストレス解消、長寿、健康維持の助けとなれば幸いと思っております。

これからも、地域の皆様に愛され、活用される協議会として歩み続けて行きたいと思っております。

今後とも、ご支援とご協力をお願い申し上げます。



北部サークル連絡協議会自主事業
「レクのつどい」の様子

サークル紹介

◆北のSAKURAクラブ◆

代表 幸野 善寿

このクラブは、平成23年5月の北部市民サービスセンターの開館にあわせ発足したバドミントンを楽しむクラブです。会員は北都銀行の永原和可那、松本麻佑選手のペアや桃田賢斗選手を目指す若人（笑）から健康増進、美容、ストレス解消、老化防止？などそれぞれ目的が違いますが、老若男女が集まり活動を行っております。

興味のある方は、是非、体育館に見学にいらしてください。

お待ちしております。



例会日
第2・4木曜日
19:00~21:00

◆グレアカ工芸同好会◆

代表 小林 基一

グレアカ工芸同好会は、県生涯学習センター主催のグレートアカデミー「創作工芸講座」を受講した仲間の継続要望のもと、平成13年に結成し少ない人数ですが活動している会です。

活動内容も木材加工を中心に、身近な素材を生かした幅広い作品作りをしております。

年齢的に高度な物はできませんが、仲間と共に作品作りを楽しんでおります。



例会日
第2・4金曜日
10:00~14:00

令和元年度 北部地域住民自治協議会 自主事業紹介

キタスカ講演会

期 日：令和元年6月15日（土）
時 間：13：30～15：00
講 師：鎌滝 孝信 氏
(秋田大学地方創生センター准教授)

次の自然災害から家族や地域を守るために 今 考えたいこと



突然の災害時に命を守るためにはどうしたら良いのでしょうか。人は災害が起きても年月が経つと忘れてしまうことがあります。

秋田市北部地域は市の津波浸水想定区域に指定されていることから、講演会では、秋田市津波ハザードマップを参考に土崎地区の危険な場所やシミュレーション動画を見ながら津波への備えなどを説明していただきました。

現在、日本海側で発生した津波や、秋田県で過去に発生した地震に関する研究を進めていること。また、その研究成果をいかに秋田県の地域防災に役立てていくかを考えているそうです。

今回の講演会をきっかけに、いつ起こるかわからない災害に対し、避難場所や避難経路などを家族や地域の方々と考え、安全安心の再確認を心掛けるよい機会となりました。

キタスカお笑い公演会

期 日：令和元年10月26日（土）
時 間：14：00～15：00
出 演：桂 三若 氏

眠気よさらば！ぐいぐい惹きつけられる落語会

キタスカ公演会では、2度目の出演となる桂三若さんの落語会を開催しました。

前半は、秋田県お笑い大使として活躍し秋田県内を飛び回って落語会をしていた頃の話や県内のお祭りを楽しんだことなど、身近な話題を三若さんの話術で会場を大いに盛り上げていました。後半は、短い落語から徐々に話が長くなっていき、一言で笑いが起きるような内容や題名でクスッと笑ってしまうような落語などをたくさん披露していただきました。

土崎には知人がいるので、よく遊びに来ることやお酒の「土崎」という言葉を使った話や、聞いていてとてもなじみやすく“秋田”のことが盛りだくさんな終始笑いの絶えない落語会でした。



キタスカ公演会

期 日：令和2年2月23日（日）
時 間：13：30～15：30
出 演：北海道歌旅座

昭和の歌コンサート「愛の讃歌」



全国を旅してコンサートをしている「北海道歌旅座」♪
前回（2018年開催）応募者多数のため参加いただけなかった方たちからの熱い要望によりキタスカ公演会2度目の出演となりました！今回の申し込みは抽選とし、結果なんと・・・1.7倍の倍率から当選者が決まりました！
たくさんのご応募をありがとうございました。



今回も、メインボーカルの淳子さん、ヴァイオリン奏者の奈梨子さん、ザ・サーモンズのコーラス隊が懐かしい昭和の流行歌を披露してくださいました。

ステージには大きなスクリーンに歌詞が映し出され、来場の皆さんも一緒に歌い、会場が一体となった参加型の素晴らしいコンサートでした。後半に披露したテーマソング「歌旅」と「数え唄」は歌旅座が全国を廻り、たくさんの方と出会い“つながり”を大切にしていることが感じられるステージでした。

また、参加者からは「昭和時代の歌を聴きながら当時のことを思い出して胸がいっぱいになりました。感動をありがとうございました」などアンケートにも楽しかった！感動した！大満足！とのご意見をたくさんいただきました。



・・・お知らせ・・・

地域文化ホールおよび体育館の天井改修工事について

令和2年10月中旬から令和3年3月末の期間において地域文化ホールおよび体育館の天井耐震化工事施工予定のため、当該施設の使用はできません。
ご協力お願いいたします。



地域の おすすめスポット

第8回 飯島地区



荻津勝章の絵馬「曳馬」

～飯島神社・飯田神明社の 社殿絵馬について～

飯島塾
塾生 永木 宏明

絵馬の歴史は古く、もとは生馬を神に献じたことに由来するといわれている。

それが奈良時代には馬をかたどった木馬や陶馬になり、平安時代には板立馬に変わり、室町時代には題材も武者絵・歌仙絵などが加わり、盛んに奉納され次第に手の込んだ絵が描かれるようになった。同時に、庶民の信仰や迷信と結びついて奉納されたのが小型絵馬で、祈願の種類や神仏の特性により題材は様々で略画されていき、現存する絵馬につながっている。

飯島の松根町にある飯島神社は、旧来、財康稻荷神社で、文政三年（一八二〇）に再建されるまで飯島のお稲荷さんであり、下飯島、鼠田尻地区の鎮守として、土崎、秋田方面から多数の参拝者があった。

この社殿の中には、秋田藩に仕えた狩野派の絵師、秋田街道絵巻を描いた荻津勝孝の孫、荻津勝章(号・白



養蚕の行程を描いた「養蚕絵馬」

銀齋)の絵馬が明治二四年八月に伊勢氏という人の名で奉納されている。この絵馬は「曳馬」の図で、暴れる馬とそれをおさえる人物が太い墨線で隅取りされ、力強い画面になっている。勝章七一才の作で円熟した描写といわれている。この他社殿には「参拝」する男の絵馬が明治三五年に水戸瀬徳治氏、そして「向い狐」の絵馬が明治四十年相染町の竹谷清之助氏によりそれぞれ奉納されている。



飯田神明社

また、飯田にある神明社の社殿内には十二点の絵馬が奉納されており、その大部分が明治時代のものである。この中で県内では珍しい養蚕の工程を描いた絵馬が奉納されている。養蚕絵馬は長さ二メートルを超える大型のもので、第六代飯田村肝煎を勤めた保坂善太郎氏が奉納したといわれている。

保坂善太郎氏は養蚕のため、將軍野の桑畑を明治六年に二五町歩、明治八年に四十町歩、計六五町歩規模を拡大した。絵馬の製作年代は、明治時代前半と推察されるが、作者は不明である。

この二つの神社に奉納された絵馬のほとんどが明治時代のものであり、往時の先人達の暮らしや地域の様子を伺い知ることが出来る。馬は農民にとって、家族と同じくらい大切な生き物であり財産でもあった。愛情を持って飼育していたのであろう。また飯田では稲作のほか養蚕に取りくんだ人がいたということが絵馬から知ることが出来る。

養蚕事業は、大政奉還後禄を失った武士の救済のために、国が奨励したものである。しかし、今ではその名残がほとんどない。絵馬を奉納したのは個人の奉納主であるが、当地の住民達の願いが反映され、人々の神仏への豊かな係わりが伝わってくる。



「向い狐」の絵馬